

(別添 1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価項目

作成日 平成 21年 8月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家淀川		
所在地	大阪府大阪市淀川区十三今里1丁目9番6号 (電話) 06-6838-8421		
評価機関名	株式会社 ケアウィル		
所在地	大阪市中央区本町4-4-24住友生命本町第2ビル3階		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価確定日	平成21年9月16日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3階建ての 2~3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1		1名	要介護2		9名
要介護3		5名	要介護4		3名
要介護5		0名	要支援2		0名
年齢	平均 87歳	最低	72歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	わたなベクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設後3年6か月を経過し、職員も定着しており安心感を感じられる、ゆったりとした生活の場となっている。ホームの理念として、8項目のサービス提供指針を主眼に置いた運営がなされている。住宅地の中にあるホームであり、地域の自治会にも加入して情報入手することで、近隣の方との交流もさらに深めていきたい考えである。ホーム内での行事などは年間計画を作成し入居者と共に楽しめるような内容となっている。フロア内は明るく、季節を感じるような飾りを入居者と一緒で作るなど残存機能を生かした取り組みに注力している。日々の日課にとらわれず、入居者一人ひとりの思いや意向をできる限り尊重し、ケアサービスが提供されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の見直しは、その期間に応じ適切に見直しが行われている。目標に対してモニタリングが実施されカンファレンス等を通じ評価している。法人研修として年間計画に沿って実施されている。管理者を中心に受講した者が伝達する形で情報の共有を図っている。マナー、健康管理委員会は職員主導で参加している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が中心になりユニットリーダーの意見も取り入れながら作成されている。前回結果について全職員が確認し、ホームの現状について気づきのきっかけとし改善活動に生かしていきたい意向である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 2か月に1回の割合で、運営推進会議を開催し、ホーム内での取り組みや行事報告、入居者の様子などを中心に報告されている。運営推進会議がさらにホーム運営に有効なものとなるように、開催時期などをあらかじめ計画したうえで、それぞれの時期に適した議案を設定するなどさらなる取組みが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族がホームに来られることが多く、日常的に日々の生活の様子や健康状態など報告を行っている。体調等変化があった場合はその都度、電話で連絡が取られている。入居者の買い物等金銭管理は毎月報告がなされている。玄関に意見箱の設置など意見、要望の聞き取りに注力しているものの活用されにくい現状にある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入している。ネットワークを通じて、地域行事の情報などを取り入れてはいるものの積極的な参加までには至っていない。ホーム行事を地域住民にお知らせしたり、ホームとして参加できる地域行事には積極的に参加するなど地域住民とのふれあえる機会を持つことにより地域に根づいた活動に期待したい。

評 価 項 目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を尊重することを考え方の中心に置き、8つの項目を事業所の運営方針として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の運営方針を記載したものを玄関やスタッフルームに掲示し、業務に入る際に意識しやすいようにしている。		毎月行われているミーティングの際など、理念の内容を掘り下げて職員全体で話し合われる機会を持つことえお期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として活動することを念頭に置き、自治会にも加入し、そのネットワークの中から意見を頂ける機会もある。また、併設のデイサービスセンターと合同で餅つき大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。		地域で行われる清掃活動への参加等行っていきたいと考えていることから、今後更に地域の方とのふれあいを大切に、その地に根付いた活動をされることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が2回目の外部評価受審である。前回の評価結果を踏まえ、具体的に検討・改善を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2 ヶ月に1度の割合で、運営推進会議を開催している。事業所の現状及び行事実施報告が中心となっている。また、入居者の様子やボランティアの受け入れ状況についても報告がなされている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において、地域包括支援センター職員との係わりは維持されているが、区の担当者との協議は少ない状況にある。</p>		<p>区担当者と情報交換を行い、事業所の実情や考え方を共有する取組みが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族様の面会も比較的多くあり、都度、入居者様の暮らしぶりや健康状態を伝える機会を持っている。また、金銭管理については、出納帳上で管理され、毎月報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関口に意見箱を設置し、意見を頂きやすいように配慮している。また、法人担当主導で、家族に対して満足度調査を実施し、現状を把握、検討する取組みもある。</p>		<p>過去に家族会を行った経緯があるため、その取り組みを推し進め、運営に活かされることを期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、管理者始め職員配置が落ち着いた状態にあり、異動や離職も最小限に抑えられている。管理者は、日頃から職員と密にコミュニケーションを図ることを重視している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画のもと、管理者を中心に研修を受講する機会が設けられている。また、マネージャー委員会や健康管理委員会が定期的実施され、各事業所間で情報が共有されている。外部研修は認知症実践者研修を順次、受講する体制が構築されている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>淀川区内のグループホーム連絡会に管理者が参加して情報を収集し、ネットワークを拡げている。また、同法人内でも広く事業所展開がなされており、交流する機会も多くある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前のアセスメントにより状態を把握し、転居後、早く新しい環境に慣れてもらうために、コミュニケーションに注力している。また、馴染みのある家具や衣類、小物を数多く持ち込んでもらい、落ち着ける環境づくりを意識している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>過去の経験や知識を活かしてもらえるように常に意識して支援にあたるように職員は意識している。女性の入居者が多く、家事面では共に作業を行ってもらい、残存機能を活かせるよう支援している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者や家族と話し合う機会を持つことで、意思確認を行い、サービスに反映するように注力している。出来るだけ入居者の立場にあった介護を行うように努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントや担当者会議を通じてケアの在り方をしっかりと検証し、介護計画を作成している。本人、家族の同意のもと、サービスが提供されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なモニタリング、目標設定期間に応じたアセスメントやカンファレンスを通じて、新たな課題等を設定し、介護計画の見直しが実践されている。入居者や家族の意思も確認されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>かかりつけ医による月2回の往診により入居者の健康状態を確認している。また、家族との話し合いにより専門医の受診の付添を行うこともある。ホームに併設されている訪問看護、福祉用具の活用など状況に応じた柔軟な支援が実施されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族と話し合い、希望する馴染みの医師による継続的な医療を受けられるような支援が行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームとしてターミナルケアの実績がある。入居前、また、状態の変化に応じて話し合いが行われ、医療、家族との連携を図り、意思や情報の共有が行われている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録物などは鍵の掛る棚に保管され、個人情報適切に管理している。入居者への声掛けの際には尊厳のある言葉づかいに注意している。配慮に欠ける場面がある場合には管理者から説明するなど意識をもって取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れは決まっているものの個々の体調や生活リズムに配慮しながら個別性のある支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の楽しみの場ととらえ職員は同じものを一緒に食べている。食事の準備として野菜の皮むきなど手伝ってもらう場面も見られ、個々の力を活かすような支援が行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は夜間帯以外は本人の希望を尊重しながら援助されている。入浴を嫌がる入居者に対しても時間や曜日を変更するなど柔軟な対応が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備を手伝ってもらったり洗濯物や掃除の手伝いなどを一緒に行ってもらうなど役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、近隣の公園や買い物など季節を感じてもらえるように日常的な外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠されているものの、ホーム内の2、3階には自由に行き来出来る状況にある。入居者の様子を観察し、さりげない声かけや一緒について行くなど安全に生活してもらえるよう配慮されている。		管理者は鍵をかけないケアの実践に意識を持っており、日中は鍵をかけないケアに取り組みたいとの考えからケアカンファレンス等で職員全員で話し合う機会を持つことによって職員全員で共有し、鍵の掛けないケアに実践に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的に避難訓練を行っている。		地域住人の協力を得ながらの日中と夜間を想定した火災訓練や備品の管理、職員への周知徹底等より一層の取り組みが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量、水分量を個人記録に記入することで日々の状況を把握している。提携の栄養士が献立を作成することで栄養バランスのとれた食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアにはテレビ、ソファなどが配置され、ゆっくりと過ごせるよう配置されている。フロア内は明るく季節を感じられるものや入居者の協力をえながら作った飾りなども置かれ、温かい雰囲気づくりに配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族と相談して馴染みのものを使用してもらうよう声かけを行っている。居室入口、居室内にもホーム内で入居者が制作した季節感のあるものが飾られるなど配慮している。		

は、重点項目。